

平成27年度第4回（第17回）3市共同資源物処理施設整備地域連絡協議会会議録

○日 時 平成27年7月11日（土）午後7時～9時15分

○場 所 東大和市桜が丘市民センター 2階 集会室

○委 員

（1）自治会・マンション管理組合等 以下のとおり（17名）

自治会・管理組合名	代表者	専任者
プラウド地区自治会	庄司（代理）	光橋由訓
栄三丁目自治会	田中正明	岡田正嗣
新海道自治会	高田（代理）	—
日神パレステージ東大和桜が丘管理組合	—	後藤隆康
グランステイツ玉川上水管理組合	川崎（代理）	深澤正郎
クロスフォート玉川上水管理組合	—	山崎 武
グランドメゾン玉川上水ウエストスクエア管理組合	坂本長生	—
グランドメゾン玉川上水センタースクエア管理組合	村上（代理）	森口恵美子
グランドメゾン玉川上水イーストスクエア管理組合	小川昌平	相内 章
グランドメゾン玉川上水ノーススクエア管理組合	邑上良一	阿部健二
グランスイート玉川上水管理組合	—	斉藤理憲

（2）3市・衛生組合 以下のとおり

区 分		出 席 者
組 織 市	小 平 市	白倉資源循環課長
	東 大 和 市	松本ごみ対策課長
	武蔵村山市	—
小平・村山・大和衛生組合		木村計画課長・片山事務局参事

○事務局

小平・村山・大和衛生組合	菅家計画課主査・里見計画課主査・小島業務課主任
--------------	-------------------------

○出席者

区 分		出 席 者
組 織 市	小 平 市	小林市長・岡村環境部長
	東 大 和 市	尾崎市長・田口環境部長
	武蔵村山市	山崎副市長・佐野協働推進部環境担当部長
小平・村山・大和衛生組合		小林管理者・村上事務局長

※小平市長と組合管理者は同一

**【会 議 内 容】**

**【邑上会長】**

済みません、皆さん、こんばんは。時刻になりましたので、本日の協議会を始めたいと思います。会長の邑上です。よろしくお願いします。

まずは、事務局のほうから連絡がありますので、そちらからお願いしたいと思います。

**【木村課長】**

本日はお忙しい中をお集まりいただきましてありがとうございます。

本日はごみ処理施設の計画等について、施設の姿に対する意見・要望について、その他を行います。また、今回は3市の市長、組管理者出席のもと、意見交換をさせていただきます。

前回の会議録を事前に配付しておりますが、訂正等がある場合については、後ほど事務局のほうまでお願いしたいと思います。

それでは、進行に当たりまして、連絡とお願いをさせていただきます。

会議の終了時間は8時45分を予定しております。ご発言いただく場合には、お名前その後にご発言をいただきますようお願いいたします。また、ご質問の際には、どなたに対する質問なのかを明確にさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日も各市担当部長が出席しておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、最初に、3市市長、組管理者の紹介をさせていただきます。

東大和市の尾崎市長でございます。

**【尾崎市長】**

こんばんは。

**【木村課長】**

続きまして、武蔵村山市の山崎副市長でございます。

**【山崎副市長】**

皆さん、こんばんは。よろしくお願いいたします。

**【木村課長】**

続きまして、小平市の小林市長でございます。

**【小林市長・衛生組管理者】**

皆さん、こんばんは。

**【木村課長】**

小林市長におかれましては、衛生組合管理者も兼ねております。  
以上でございます。

**【邑上会長】**

済みません。今回、3市の市長、副市長に来ていただいていますので、まずは挨拶をしていただくということをお願いしたいと思います。

まずは、東大和市長からお願いします。

**【尾崎市長】**

皆さん、こんばんは。尾崎でございます。本日は、施設整備地域連絡協議会にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

小平・村山・大和衛生組合の焼却施設と粗大ごみ処理施設は、長年の使用により、それぞれ施設の建て替えが急務となっている状況にあり、引き続き、共同処理を円滑に実施していくためには、ごみ処理事業全体の中で、資源物処理施設を一体のものとして整備する必要があります。

本事業につきましては、平成17年8月に、資源物の共同処理に向けての検討と、共同処理施設用地として、東大和市暫定リサイクル施設用地を借用することなど、3項目が小平・村山・大和衛生組合理事者会によって確認され、その後、平成19年12月には、3市共同資源物処理施設の建設については、現東大和市リサイクル施設用地を活用すること、また、共同処理の検討対象はびん、缶、ペット、その他プラスチック、乾電池、蛍光管の6品目とすることなど、5項目が同じく理事会において確認された事項となっております。

その後、平成22年6月に、当市が3市共同資源物処理施設の受け入れは不可能であることの意味表示を行いました。このままでは焼却炉等の更新事業を行えず、廃棄物の適正処理に支障を来すとの判断から、当市としての役割を果たすため、小平市及び武蔵村山市へ調整を図ってきたものでございます。

資源物処理施設を市内で建設するとなると、桜が丘2丁目以外に適地がなく、また、施設敷地面積が4,300平方メートルと限られていることから、共同処理品目を6品目から2品目へ変更し、協議させていただいたものであります。

一方、東大和市内で焼却炉を建設することは難しく、引き続き、小平市中島町において焼却をお願いしていくことが求められ、そのためには、3市共同資源化事業により、廃棄

物の焼却量を減らしていく努力が必要であります。

また、現在、当市が民間委託により実施しております容器包装プラスチックの中間処理につきましても、市の暫定リサイクル施設の処理能力が不足していることから、本事業が実施できるまでの措置としているものであり、本質的には法の趣旨に基づき、公設で実施していくものと考えております。

これらのことから、3市共同資源物処理施設は、衛生組合の施設更新と一体で実施する事業として、必要不可欠な施設であるという共同認識に基づき、3市と衛生組合で共同して、桜が丘2丁目に公設で施設を設置するものであります。

最後に、東大和市の可燃ごみ、不燃ごみ及び粗大ごみは、昭和40年2月以降、小平市、武蔵村山市の3市、小平・村山・大和衛生組合を組織し、共同処理を行ってきております。衛生組合は、組織する当市におきましても、将来にわたり円滑な廃棄物処理を進めていくためには、なくてはならない重要な施設であります。そのため、小平市、武蔵村山市及び衛生組合と協力のもと、引き続き、市民の皆様と協議を重ねながら、事業を進めてまいりたいと考えておりますので、ご協力のほうよろしくお願い申し上げます。

以上です。

#### 【邑上会長】

ありがとうございます。

続いて、武蔵村山市の副市長、ご挨拶をお願いします。

#### 【山崎副市長】

改めまして、皆さん、こんばんは。ただいまご紹介をいただきました武蔵村山市の副市長の山崎でございます。本日はよろしくお願いいいたします。本日、私どもの市長がどうしても都合のつかない他の公務が入っております、代理で私のほうが出席をさせていただいておりますので、重ねてよろしくお願ひ申し上げます。

初めに、武蔵村山市の家庭ごみ処理の現状についてお話をさせていただきたいと存じます。可燃ごみ及び不燃ごみにつきましては、市内で収集後、小平・村山・大和衛生組合に直接搬入をいたしております。資源物は、当市内の民間事業者の施設に搬入し、中間処理を行い、売り払いを行っているところでございます。

その中で、資源物の多くを占めているプラスチック製容器包装及びペットボトルの2品目につきましては、当市内の民間事業者へ委託により処理をしておりますが、委託先も、民間事業者の都合や事情によっては、処理委託契約ができなくなる恐れもあるわけでござ

います。

そこで、3市共同資源化施設において、行政が共同処理することにより、民間事情の影響を受けにくくなり、安定した処理が可能となることが考えられておるところでございます。現在の焼却施設の更新を視野に入れた3市共同資源化事業は、廃棄物を将来にわたり安定的に、継続的に処理していくために必要な施設でありますので、地元の皆様のご理解をいただきまして、当事業を進めてまいりたいと考えております。

今日、ごみ問題は全国的に大きな課題であり、ごみの減量化・再資源化を市民の皆様とともに進めていく必要がございます。今後も小平市、東大和市、武蔵村山市及び小平・村山・大和衛生組合の4団体が協力して、さらなるごみの減量に努めるとともに、3市共同資源物処理施設整備地域連絡協議会の方々と協議を重ねながら、ご理解をいただき、3市共同資源化事業による施設の環境整備等を行ってまいりたいと考えておりますので、何とぞご理解をいただくとともに、ご協力をお願い申し上げます。簡単でございますが、挨拶にかえさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

**【邑上会長】**

ありがとうございます。

続いて、衛生組合管理者である小林市長です。挨拶のほうをお願いします。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

皆さん、こんばんは。どうぞよろしく申し上げます。

小平市長として、小平市の現状を申し上げますと、これまで申し上げてまいりましたが、小平市では資源物の中間処理につきましては、適正な処理の維持向上に向けた処理体制の整備として、地方自治体の責務として、環境衛生の維持の面から、日々出される資源物を含めた廃棄物を中断なく適正に処理を続けることができるよう、公的な施設として、平成5年に小平市小川東町に小平市リサイクルセンターを開設をして、びん、缶、ペットボトル、プラスチック容器等の中間処理を行っております。

この施設につきましては、補修等を行って維持はしておりますが、既に老朽化が進んでいる上、開設後のリサイクル品目の拡大等に伴いまして、現状の資源物処理を行うことで、精一杯という状況でございます。新たな処理品目を拡大することができない現状でございます。そのことから、現在はプラスチック製容器包装の一部、軟質系プラスチックにつきましては、ごみとして焼却処理をさせていただいている現状でございます。

今後ごみの減量を推進していくに当たり、軟質系のものも含めて、全量のプラスチック

製容器包装の資源化は、小平市にとりましては、大きな課題となっております。そのような中で、小平市では平成26年3月に一般廃棄物処理基本計画を定め、この計画の重点施策として、容器包装プラスチックの資源化推進を掲げております。

今回の3市共同資源化事業における3市共同資源物処理施設の整備は、3市におけるプラスチック製容器包装とペットボトルの2品目の共同処理を行うことから、中長期にわたって、安定的かつ継続的に全量プラスチック製容器包装の資源化を行っていくために必要な施設であると考えております。

さらにこの施設ができることで、小平市の課題を含め、今後3市の市民の廃棄物処理における不燃・粗大ごみ処理施設の更新やごみ焼却施設の規模縮小も可能になることから、3市共同資源物処理施設の整備は、今後の3市における廃棄物の処理体制の維持に必要な不可欠であり、とても重要な施設と捉えております。ぜひ、資源物処理施設の受け入れにつきまして、ご理解をいただきまして、今後の不燃・粗大ごみ処理施設、ごみ焼却施設の更新につなげていきたいと考えております。

続きまして、衛生組合の管理者として、今後の進め方を申し上げますと、3市共同資源物処理施設の建設に当たり、協議会を設置していただきまして、1年以上の経過がいたしておりますが、これまでに必要性や立地などについて、丁寧な説明をしてきたつもりでございます。

このような中で、現在も施設建設に反対の立場がいらっしゃることは確認をいたしておりますが、一方で、容認の立場である方も含めて、さまざまな考え方の方がいらっしゃるなど、施設建設に関しましては、ご理解をいただいている方もいると認識をいたしております。

全員の方にご理解をいただくことは難しいとは思いますが、さらに理解を深めていただくために、今後この協議会では本来の目的である施設の形、施設の姿や環境対策などについての具体的な協議をしていく考えでございます。皆様からご意見としていただいている建設や運営に係るコストにつきましても、具体的な協議を進めていく中で、明らかにしていきたいと考えております。

施設周辺住民の皆さんにおかれましては、3市地域全体の廃棄物処理を継続的に安定したものとするため、この3市共同資源化事業の推進にご理解をいただきますことを切にお願いをし、小平市、東大和市、武蔵村山市の清掃事業を円滑に推進されますようご理解を賜りますことを、小平市長として、また衛生組合の管理者としてお願い申し上げます。

以上でございます。

**【邑上会長】**

ありがとうございました。

ちょっと後になりましたけれども、今日は配付されている資料は、この次第だけかと思えます。次第だと、開会の後は、2番と3番、2番にごみ処理施設の計画等について、3番で施設の姿に対する意見・要望についてということで書かれてはいるんですが、事前に事務局のほうとお話をしまして、今回は3市長に来ていただけてますので、こういうふうに関心で特に分けなくて、直接いろいろ聞いてみたいこととか、そういう事をする場にしたくなると話をしています。

注意点というか、お願いとして、いつも一緒といえば一緒なんですけれども、まず、質問がある方は一応名乗っていただき、それと、どの方に質問をするのかということを確認にさせていただいて、あとは、なるべくゆっくり、はっきりとしゃべっていただく。なるべく要点を短めの質問で、なるべく明確なということをお願いしたいと思えます。そのほうが、後で議事録を確認する我々としても、楽になるかと思えます。

あとですね、マイクをできれば使っていただければと。何でかという、録音をしているものを聞くときもそうなんですけど、議事録書く方も容易になるということで、できれば、そういうふうに進めていきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

ですので、質問等、まず、いろいろ要望等あるかと思えますので、挙手をして、お願ひしたいと思えます。1人の方がずっとというわけにもいかないと思うので、ちょっと、順々に、質問が幾つかある方は順番にかわりながら、進めていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

どうでしょうか。

**【森口専任者】**

本題に入る前で申しわけないんですが、前回、片山参事から、要綱は変更できるが、私どもにも条件がありますから、それを合意しないと変えられませんという発言があったので、要綱について変えていただきたいと思うので、その件は、このまま私たちが何も言わなければ、その要綱を私たちから受けて、納得したというふうにとられると困りますので、今日は市長たちが来ているので、要綱についてはしなくて結構ですが、次回お願ひしたいんですが、よろしいでしょうか。

**【邑上会長】**

今のお話は、要綱を変える場合に条件があると言っていたので、その条件は何かという確認をしたいということでしょうか。

**【森口専任者】**

もありますし、私どもにも条件がありますから、それを合意しないと、変えられませんという片山参事の発言だったんですけど、今までの要綱の作り方というのは、私たちがこうしてほしいというのを書くと、紙で組合からの回答はこれですよという回答をもって、そのまま押し進められてきて、私たちは挙手して、合意しているわけでもないし、一つずつにこれは納得ですねということもしていないですよ。

こういう会議があるのは、要綱の上にあるから、とりあえず要綱がないと、進められないということで、第1回目が始まりましたけれども、ピンポンというか、やりとりの間で、紙で、いつも、今回の、この意見と回答もそうですが、自分たちで回答を書いたら、その回答を合意したかのように、全部それで押し進められて、書いてあることに、その場で反論しなければ、全部納得したという進められ方をして、要綱についてもそうなので、自分たちが行政として条件があって、それを合意しないと、変えられませんということだったならば、その要綱についても、私たちが合意しなければ、各項目を進めてもらったら困るので、そういう点について、お互いの条件を話し合いと、もう一度思っていますが、ほかの皆さんも、そういう意見の方があつたら、ぜひ要綱について、きちんと、何回も要綱のことで揉めていますので、やったほうがいいと思うので、ぜひお願いします。

**【邑上会長】**

要綱について、合意したわけではないということだと思ふんですけども、それぞれご意見があると思います。基本的に私もそれはそうだと思っているんですけども、要綱がないと、協議会そのものが開けない、開催できないということだったので、まあ、後で変えられるからということで、変えられるからという合意をしたと思ふんです。もともとは最初の要綱の一番最初に書いてあつた目的から見直したいという話はあつたと思ふんで、それは多分そのときから今も変わらないと思ふんで、そのことはそうだと思います。

市議会などで、住民側と合意しているという言い方をしているようですけど、それは正しくないですよ、確かにね。なので、これは、今後続けるということではないかなと思います。

**【小川専任者】**



グランドメゾンイーストスクエアの小川です。

この間の6月市議会で、松本課長が議会答弁で、要綱自体が私どもが一方的につくられたことはないと述べられていますが、これは押しつけられたものですよ。

なぜかという、はっきりした合意もとらずに、その他の会長選任とか議事進行の進め方を決めて、とりあえず会議をしていこうという、それにすぎないんですよ。多数決でそうしようということではなかったんですよ。だから、何回も、揉めたんですよ。第2回、第3回までも、揉めたんですよ。それで、案が出て、いつの間にか案を取っ払って、その要綱ができないまま、準備会で、第1回から進められて、その後に8月から始まったんですよ。それでもって、要綱も仕方なく、その他の方法論で、合意したんじゃないくて、結局は押しつけられたんですよ。

案を出しました。建設ありきじゃなくて、建設の是非も含めてやりましょうと言ったんですよ。それがなかなか取り上げられませんでしたよ。そういう結果を踏まえてやりますと、これは合意されたものではないと。その点で、今まで、また、要綱に沿ってやっているから、ここに集まった人の合意を得られた、理解を得られたというふうに、全部説明しています。広報『えんとつ』でも、協議会をやりました。その反対側、もう9割方が反対の意見は全然載せていません。そうじゃないですか。

それから、環境衛生調査、これも、あなた方は、これをやらないと不利益になりますよということで、建設の理解されたような形でまた報道されています。いろいろなところで、そういう情報が入っています。

それで私、イーストスクエアの方では、あの、グランドメゾンのほうでは、環境衛生調査をするのに、機器を設置してくださいと言われてました。だけど、これは建設ありきで調査するんだっただめだと。そうでなかったら、それは環境衛生調査だからそれは反対しません。建設ありきでやっているから、建設に利用される。それで、環境衛生調査もして、何か理解されているような、合意を得たような形になっています。

その前の会議で、これまで一切そういうことは利用しませんと言いながら、でも、結局はそうなっているんですよ。これは何かというと、要綱でそういう問題が、建設ありきでやっているから、それに利用されているだけの話です。だから、ここで、建設の方も含めた要綱に変えるべきだと思います。私はそう思います。

**【邑上会長】**

今のだと、意見ということによろしいですね。

【小川専任者】

はい。

【邑上会長】

要綱についても、合意したわけではないということと、『えんとつ』などの広報でも、正しく広報できていないよということですよ。そういうことでいいですよ。

【小川専任者】

はい。

【邑上会長】

はい、わかりました。

【松本課長】

私も意見を言っていますか。

【邑上会長】

今のに対してですね。

【松本課長】

今の対しまして、1点目の要綱の関係で答えますが、要綱については、具体的には小川さんがおっしゃるのは、そもそもの目的のところのお話がウエートが大きいんだと思うんです。ただ、現実問題として、会長、副会長の選任時に、特に副会長、地域委員でもできますみたいな。地域委員の中の、要するに、代表で出ていない専任の方もできる。そういったところについては、少なくとも合意ができて、一部改正をしているというふうに私たちは思っていますので、要綱全てが押しつけているとうふうには思っていないということが1点です。

2点目です。大気質の調査の件ですが、当初、私たち4団体は、4地点を想定して計画しているというお話をしました。その際に、5地点目で高さをということは、私どもからの提案ではなく、皆さん側からの提案だと私たちは認識しております。したがって、その辺についても、事実関係という点では、私どものほうは言い分があるということでもよろしくお願いたします。

【森口専任者】

センタースクエアの森口です。市長たちが来ているので、市長たちとお話をしたいんで、短めに切り上げますがけれど、松本課長は市議会でもそのように話されましたけれども、要綱については、この会議の中で悪用はしないということを、短めに言いますと、簡単な言

い方で言わせてもらおうと、悪用はしないと、賛成しているような使い方はしないということをして私が発言したと思います。そのときに、そういうことはしませんというという回答をいただいたので、私たちのほうが皆さんより大人ですので、ここでほかの方の迷惑にならないように、そのまま進めています。

それが、現実にはそういうことを裏切って、いろいろなところで、ここがやっているから、合意しているんだってという使われ方をしているから、こういう事態になっていますし、地域環境調査についても、こちらのほうのそもそも論もやるし、建設についてのことも一緒に両輪としてやっていくということが、分科会で集まったときに、集まった方々も、皆さん、そうですねという返事をしました。

その上でやっているのに、片側のそもそも論だけは、この場ではやらせない。分科会も、下部組織としては認めないということがわかりましたし、その後に片山参事のほうから、都市計画決定をするに当たって、環境影響調査の結果をもって説明したということにして、進めるという話がありました。

環境影響調査が説明すれば、通るということではないし、これから今日は市長たちにいるんな質問をさせていただきますけれども、そういうことを質問したり、あれしたりすることで進んでいかなきゃいけないのに、環境影響調査の説明をすれば、それでもう済んだことにして、都市計画決定を進めるという話がここの場でありましたので、そんなことに使われる都市計画決定には協力できないねっていうことで、それまで協力しようとした気持ちが、ああ、また使われていたんだな、私たちいいように。ということになりました。

それで、この場ですけど、小平市長に質問していいですか。用地とか、そういうことについて丁寧な説明をしているということで、今、挨拶のときにされましたけれども、この場は、説明を聞く場じゃなくて、協議会という場になっていますね。協議会でよろしいですか。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

私からではなくて、協議会の会長がおられるので。

**【森口専任者】**

でも、今、丁寧な説明をしてきていますね、何回も。ということで、小平市長が挨拶でおっしゃったので、小平市長にお聞きしています。この場は、丁寧な説明をして、私たちが説明を聞きましたという場ではなくて、協議する場なので、そもそも論と私たちは呼んでいますけど、そういうことについても協議ができればなと思っています。

なのに、一方的にいつも組合からは、組合の職員の方たちっていうのは、みんなが回答して、もう回答でまとまったときの、例えば基本構想の回答とか、回答出ていますよね文書で。それを読み上げるだけの回答しか、彼らはできないんです何も。この場で何回も説明しているということは、私たちが幾ら聞いても、お経読むみたいに、書いてあることを読んでくれるだけなんですよ。

そういうことのやりとりが多くて、ここの場所でも時間とっていますし、協議ではなくて、その説明のために、本当に何回も書いてある、通り一遍の説明を読むために時間をとっているような状況です。

それが、もしここで、小平市長がおっしゃるような用地や何かについても、ここで丁寧な説明をしているということだったら、ここで使うべき時間ではないし、私たちは協議として進めたいのに、もう書かれている、通り一遍の説明を、何度でも組合の方たちが読み上げることで、ここで労した時間は多いと思いますので、ここで説明したから、進めさせてくれっていうのはおかしいですよ。協議する、話し合いをするから、進むもので、説明だけ何回でもして、もう洗脳教育されているかのように、同じことをずっと聞かされていますので、今日、市長たちは何の目的でいらっしゃいましたか。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

質問はどっちですか。

**【森口専任者】**

質問は、まずこの場は説明をする場じゃなくて、協議をする場でよいですねということが1点。そして、今日の目的は、市長たちがいらっしゃるときというのは、例えば、この協議会で説明があったのは、節目があるときにいらっしゃることだったんです。節目があるときというのは、何か決まったことがあって、じゃあ、次に進めるってときじゃないと、市長たちはいらっしゃらなくて、市長がいらっしゃったときっていうのは、ここはもう皆さんやったということで、押し切った、出たということで、名目を立てて、市長が参加したんで、これで説明責任を果たしましたよっていうことで、また次の何かを始める目的でいらっしゃったのかなっていうことの2点をお願いします。

**【邑上会長】**

お願いします。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

協議会については、会長さんがおられますから、会長さんを越えて、私が何か見解を述

べるということは差し控えたい。もしなら、会長さんにお答えいただいたほうが、それは適正だと思います。

それから、3市長が来るときというのは、我々は細かい事務的なことは聞いてはおりませんが、的確にお話しするというのであれば、事務方のほうがより明確に、正確に伝えられるということですから、我々よりも、ですから、事務方のほうが細かく説明ができますので、そういう場合は、我々がいてもですね、十分、いなくても答えられるということです。

それで、今日来たのは、1つは、この間ずっと事務的な説明をしてきましたし、我々もその様子を見るということもありますし、また、大きな方向性でいえば、先ほども私のほうからお話ししましたけれども、1年あまりもやりとりをしてきましたので、今までも申し上げてきましたけれども、より具体的な形ですね、いろいろ皆さんが懸念をされる中身というのは、施設の内容であるとか、環境の対策、皆さんご心配されている内容からすると、こういった具体的な絵とか、心配される環境対策みたいなものをより進めることで、もっと皆さんの議論が深まるのではないかというふうに思っております。

そういう意味で、そういう思いを皆さんにお伝えをしたいということで、3市が今日は参加をさせていただきました。ですから、そういう大きなところでのやりとりを、ぜひ私どもに聞いていただければというふうに。

#### 【光橋専任者】

プラウド地区専任者の光橋と申します。よろしく申し上げます。

先ほどの話から、要綱の話から揉めておりますけれども、私どもプラウド地区は、今回の施設の建設は反対の立場です。初めから反対の立場なんですけれども、ここの協議会が建設を前提にした話し合いということになっておりますので、反対の立場からすると、ここに参加していること自体がおかしいんですけれども、協議会が始まる前の説明で、ここの協議会は、出席されなくても、出席された方だけで意見を聞いて、話が進められてしまうというようなことを言われましたので、もう建ててしまうという前提であれば、勝手な賛成派だけの方の意見で、適当な施設の姿、環境の整備で建てられてしまうのはまずい、近隣の住民としては、非常によろしくないの、やむなく参加させていただいているという立場です。それでも、構わないかという話で協議会に伺ったら、それでも構わないというお話なので、参加させていただいております。

私自身は、施設が必要性と安全性とコスト面で、やむなしという判断が、説得されれば、

賛成もやぶさかではないということで、会議の始めのほうに申し上げておりました。ぜひ、協議会でも、そういう反対の立場の方にも、そういう、先ほど小林市長が言われた丁寧な説明をやっていくということを言われましたので、私は反対の立場として、その説明を聞くがために、この協議会に参加させていただきました。

1年ちょっとですか、もう17回ですから、1年5カ月、ところどころ欠席もしておりますけれども、ほとんど参加させていただいて、その丁寧な説明というのを伺おうと思って、聞いておりました。確かに今回の施設と似た近隣の施設の見学会が3回あったんでしょうか。そのうちの1回は最終施設と再生処理工場の見学でしたので、実質、似たような施設は、2回、平日会社を休んで参加させていただきました。

その、丁寧な説明の内容というのを、市長はわかっていらっしゃるのかなど。確かに似たような施設の見学会に行きましたけれども、今回の我々のような、施設の近くに住宅地が建っているようなところは、全然ありませんでした。ゴルフ場とか山の中とか、周りが田んぼの中にあたりとか、こんな近くにマンションが建っているようなところとか、隣に老人ホームがあるとことか、市民広場があるようなところは1カ所もありませんでした。

勉強会も開催していただきました。勉強会は、害のあるVOCですか、そういうのが、14物質が既に見つかっておる、認められていると、実験で。そういうのは確実に出てくると言われて、ただ希釈すれば、薄くなれば、大丈夫なんですよと。今回の施設も、ちゃんと抑えることができますよということは、口では言っていましたけれども、見学に行ったところも、必ずにおいが出ておりましたし、やはり抑えられることはできないなということが確認できました。

ですので、行ったところ、教えていただいた、習ったところをみると、やはり、今回の施設をこの場所に建てることっていうのが、確実におかしいよねということが、丁寧に説明されたと思います。そういうようなことで、形ばかりの丁寧な説明っていうのを、中身も確認せずに、現場の人に任せて大丈夫なんでしょうか。全く逆の方向の意見しか、私は持ちようがなかったんですけれども、そういう状況で、今回の協議会は、施設の姿とか、環境の整備とかを意見を募るとおっしゃっていますけれども、今ちょうどオリンピックの国立競技場のほうの施設の問題が出ていますけれども、あれも、先に施設の姿、デザインのほうが先決めちゃったものですから、コスト面が今、問題になっています。まるでうちの施設の話のようにですね、姿の形から先に入って、後からコストでも考えるんでしょうか。反対じゃないでしょうか。ちゃんと予算とか、可能な範囲を決めていただいてから、

そちらから、どういう施設の姿の可能性があるとかが、環境がこんな形になるということで、幾つか提案していただいて、やっていただくならまだしも、先に意見だけ言わせるということは、やはり市民の意見を聞いているというアリバイづくりのような気がします。やはりここで、先ほどの要綱の話も出てましたけれども、やっぱりそもそも本当にこの施設を建てる必要があるのか、そこから話を進めないと、我々反対の派のほうは、いつまで経っても、この施設の姿や環境の話をする気にはなれませんし、今のような意見をぶつけるしかないんです。

先ほど、小林市長は全員の方の理解は難しいと、もう既に賛成、理解を得ることは諦めたような言い方をされていますけれども、近隣の我々反対派の立場の意見は無視されるんでしょうか。そこら辺をぜひ聞かせてください。

**【邑上会長】**

基本的には要望というか意見で、今、質問としては、最後の部分でいいんですか。どうします？

**【光橋専任者】**

そうです。最後の部分です。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

こういった施設というのは、なかなか、地元の人たちが受け入れをしたいと言って、要望されて、建設をするということは、現実的にはなかなかないということは正直なところであります。今、既に稼働しております小平市の焼却施設の周辺には、住宅がございます。今でも反対はあります。もう何十年経っていても反対はあります。武蔵野方式とよくこの場でも言われまして、武蔵野でも、私の知っている方はまだ反対をしております。ですから、なかなか全員がもろ手を挙げて賛成してくださるということはなかなか、我々は、全く問題なく、誠意を示してはいるんですけれども、ただ一方で、我々も三十数万人の毎日出るごみの、あるいは資源物を減量化して、できるだけ焼却を減らして、資源循環型の社会を目指していこうと大きな公約を実現していかなきゃいけない、そういった責任もあるわけであります。

ですから、そういう、現実になかなか全員が受け入れられないということが承知はしながら、一方で、その努力をしながらも、現実に出てくるごみを、市民の皆さんに迷惑をかけないで、安心して生活していただくという現実的な責任も負っております。

ですから、建設ありきとおっしゃられましたが、我々が考え得る最善の策として、提示

をしているわけであります。ですから、これは計画ありきって言われれば、そういう捉え方もなくはないんですけど、ただ、我々が示せる案として、これが最善だと。

もし皆さんの中で、ここがいいとか、こういう施設がいいという、私たちが示している案以上のものが出れば、私は、それはそれで、1つの検討の対象になると思います。それは入り口のところで、手続の問題だけやっていると、我々は具体的に絵が示せないんです。先ほどVOCの話もされましたけど、こういった対策の具体的な提案がなかなかできないということを申し上げているわけであります。

ですから、丁寧な対応はこれからもしていきますし、毎回私たち3市が、3人が出ると言われると、なかなか難しいですが、こういうことが聞きたいということであれば、我々は、少なくとも私は、できるだけ最優先して出るつもりであります。

以上です。

#### 【邑上会長】

ありがとうございます。

ちょっと進んできたんですけども、私も言いたいというか、補足したいなと思いますので、少し言わせていただきたいんですけども。

最初のほうにあった市議会での報告や広報について、特に生活環境影響調査については、住民と合意して進めていますよというような感じの説明を、多分、市議会ではしていますよね。もともとは、この調査についてはやりたいと。いろいろ心配だから、高さ方向もとりたいたいねということで、それは確かにこちら側の要望を受け入れていただいていることは間違いないですね。

ただ、調査をやるのは、施設建設を含めて、いいからやろうとは、多分、協議会にいた人は誰も言ってないですね。なので、そういう説明をするのは、市役所側のほうは、ちょっとやっぱり誤っているというか、正しくないと思います。ちょっと、知らない方もいると思うので、そういうことがまずあると思います。

なので、高さ方向を調査するということは、こちらの要望を取り込んでいるのは間違いないです。ただ、合意しているというのは、全部、全て、要望も含めて調査について合意しているわけではないですね。それは、市議会や『えんとつ』では出てこない、意図して出てこないと思いますけれども、出していないことなので、補足したいと思います。

あとは、その後で、説明の話で、丁寧な説明という話があったんですけども、確かに何度も同じ説明を丁寧に説明していただいているので、そこだけとれば、丁寧な説明は間



違うんですね。ただ、こちらが聞いたことに対して、ちゃんと回答しているわけではないというのも間違いないです。なので、ちょっとギャップがあるなということを認識していただければと思います。

最後の光橋さんは反対派という言い方をされていたんですけども、実は光橋さんは、本当は反対派ではないんですね。もともとは、やむなしであれば、賛成するというのを当初から言われていたんですけど、賛成に至る内容が一度も提示されていないというので、反対になっちゃってるってことです。これも最初からそういうことで進んできていますので、そういうご理解をしていただければと思います。

最後に、小林市長からすごくいい回答があったなと思ったことは、住民側からよい案が提示されるならいいなと。私参加するとき、一番最初から言っていたんですけども、それはやりたいなと思っていますので、そうすると、そもそも論につながるなと思います。と私は思いました。

じゃあ、続くということで、ほかの方あれば挙手をお願いします。

**【山崎専任者】**

クロスフォート玉川上水の山崎です。

今、会長が言われたように、そもそも論で、住民の声をというような話がありましたけれども、こういう話を、確かに今、小平市長おっしゃいましたけど、住民説明会をやる前に、そういう説明、そういう話って全然ないですよ。本来だったら、計画をつくる前から、そういう住民の声を聞く場をつくるべきだったんじゃないですか。こんなに進んじゃってね、今ごろになって、住民のアイデアがあれば、いいものがあれば、それ使いますよと言われても、遅いでしょう。住民説明会をやる前に、そういう提案をしてくださいよ。今頃になって、どうですかと言われても、困るでしょう。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

会長さんうまく整理したというか、誤解されているようなところがありますが、そういうことを言ったのではなくて、我々は、いいところがあればって、10年も20年も議論していたんでは、今、持っている施設が、更新時期を超えてしまいますよね。

ですから、我々はそういう制約の中で、今、我々が事務方でいろんな検討をした中で、今のところが最善であるということであって、皆さんは、ここがいいとか、ここが悪いとかということは、あまり聞いたことがないし、もっと一般の人たちからの声を広く集めて、こういう、まあ、なんていうのか、一般でよく言われるような話ですよ、広く市民の声

を聞いてっていうのがあるけど、施設の性格上、より具体的に、我々はとにかく最善の案を出しているわけでありますので、我々はこれ以上のものはないという自信を持って出しているわけであります。ですから、皆さんのほうで、ここで、地元の人も全部合意してやれるということであれば、そんなことは我々はずっとやってきたんですよ。

ですから、そういうことを言っているじゃなくて、そういう具体的な案を出して、そもそも論の入り口みたいな話で空転して、もう1年経っているわけですよ。ですからね、いい案だなどと言われて、私は、ちょっと誤解しているんじゃないかと。みなさん、もし、そんなことがあればですね、この場を出してもらえればいいと思いますけど、我々は、少なくとも今の以上のもはないと思っております。

**【邑上会長】**

ほかの方がいれば、優先、先にしたいですけど、どうですか。

**【松本課長】**

会長、ごめんなさい。

先ほど来のやりとりの中で、会長がまとめていただいた中で、1点誤認かなという点を済みません。

1点は、要綱の一部改正を経た中で、今、要綱が設置されている点。それともう1点は、大気質の調査の点、この実施の計の2点で、この2点が進んでいるから、私ども市議会において、住民の皆さんの理解が得られているという答え方をした記憶はございませんので、よろしくお願ひしたいと思います。

それと、あと、もう1点が、今のこの実施方法が最善であろうという話の中で、他の選択肢があればという点であるんですが、これにつきましては、2年前に8月ですか、東大和市中央公民館のホールで説明会を実施した際に、私どもの尾崎市長のほうが、代案のほうがもしあれば、提示してくださいというお話をさせていただいているかと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

**【山崎専任者】**

住民説明会の前に言ったという話だったんです、お願ひは。

**【邑上会長】**

せっかくなので、今の松本さんの説明について、私はそのときに市議会は、直接傍聴はしていないんですけれども、傍聴している方はいらっしゃるかと思いますので、今の説明に対して、正しい、正しくない、言えますか。

**【森口専任者】**

賛成、反対の方は、反対がないわけではありませんが、協議会でやっています、協議会が要望に則って進んでおります。協議会では、皆さんの意見を聞いて、協議会の会議録を載せてくださいという意見も聞きました。協議会の会議録というのは、協議会の要綱に則ってやっているものでありますから、皆さんは協議会に同意しているものでありますということ述べるのと、多分、おっしゃるときに、反対の人はいますけど、みんながそういうことで、要綱を納得した上で、この建設するということに対して、ここの方が参加していますっていうことの言い方が、もうここをやっていますから、反対の人がいますではなくて、反対の人もいますけれど、みんなが賛成したという形で、要綱は皆さんが納得した上で進んでいるんで、建設は、建設ありきの協議会が動いていますっていう言い方を、どこの場でも行政側はされていることだと思います。嘘は言っていないけれども、受け取る側が賛成ととれるような言い方を何でもされていると思います。

**【邑上会長】**

わかりました。ごめんなさい。そのように、やっぱり受け取られるような言い方をしているんだろうなということ。

**【松本課長】**

会長、申しわけございません。

私が言いたいのは、要するに、あくまでも要綱とか、個々の事例を出しただけであって、それをもってして、施設建設は容認したという使い方はしていないと言っているわけです。よろしくお願いします。

**【邑上会長】**

ごめんなさい。ちょっとその辺を。多分、市議会を傍聴していない人がほとんどなので、話をやりとりしたほうがいいかなと思いましたので、少しやりました。

はい、じゃあこれは、今一旦切って、じゃあ、ちょっと、まだ発言されていない方。

**【坂本代表者】**

グランドメゾンウエストスクエアの坂本と申します。

今、小林市長のおっしゃったことについては、市民との意見の随分乖離を感じるんですね、ずれていると思います。これまで協議会では施設建設について、衛生組合側から、我々、代表者等に対して、理事者のメッセンジャーとして、熱心に説明されてきましたが、内容等については、矛盾や齟齬だらけで、とても地域住民の理解を得られるものではありません。

ん。それは、この施設を建設することによって、市民に対して著しく責務相反、利益相反することが未然に察知されるからです。

その要因として、第1に、VOCを初めとする環境影響への心配が払拭できないこと。第2に、廃プラ等の車両運搬で、交通渋滞や生活安全が脅かされ、周囲に著しく環境悪化をもたらすこと。第3に、不要不急な箱物をつくることにより、市民に今まで以上の財政負担を強いること。以上、毎回の協議会で、この3点に焦点が絞られてきたように思います。

ご存じのことと思いますが、我々、代表者等は、マンション管理組合の理事長や自治会長等で構成され、それぞれの住民から負託されて出席しております。我々のマンションでも100%絶対反対という意見で、施設を建設するために、必要な肝心かなめの合意や同意は全く得られておりません。

私どもの管理組合では、どうしても施設を建設するというのであれば、市民に多額の財政負担を強いることになるので、計画の責任者がイニシャルコストとして、今、計上している予算額17億円に対して、例えば、入札価格が20億円をオーバーした場合、その1割の2億円、それと、ランニングコストが現在の歳出額よりも増加した場合、増加分の1割を10年間にわたって、今の3市市長に負担していただき、残りの9割を3市市民で負担いただくのが相当であるという意見がありました。

総括した結果、建設に着手した場合、3市市長の責任として、応分の負担を約束してください。このことは、3市市長の責任者としての自覚と無責任な決定を防止する、いわゆるリスクアセットを担保する最低限の条件であり、現在、対象の廃プラ等が問題なく処理されている事実を踏まえ、なぜ巨額の費用を投じて、施設建設しなければならないか、将来にわたって大きな禍根を残さないために、一度リセットして、そして、市民の納得のいく十分な説明責任を果たした上で、焼却炉の更新を含めて、全体的に検討すべきであるという意見。

以上のことについて、その覚悟のほどをどうお持ちかどうか、3市長にお答えいただきたいと思います。

以上です。

**【邑上会長】**

ありがとうございます。ちょっと、大分長かったんですけど、要点としては、例えばその、3市長も負担をしてくれと。

【坂本代表者】

そうです。もう責任者ですから。

【邑上会長】

簡単に言っちゃうと、そういう感じですか。

【坂本代表者】

欧米では、ノブレス・オブリージュといって、それなりの市長とか、そういう地位にあるものは、絶対そういう独立的な義務があるわけです。だから、それを言っているわけです。だから、そうやって決めるからには、市民が税金を負担するわけですから、それ同様の応分の負担をしてほしいということです。覚悟はありますか。

【邑上会長】

いかがでしょうか。よろしくお願いします。

3名それぞれにということですか。

【坂本代表者】

それぞれに。

【尾崎市長】

負担しろということですけど、1つの事業として、3市の資源物施設を建設という形で、私自身は判断をさせていただいて、2品目でならということを進めてきたわけですが、その事業を、東大和市として、全体として、ごみ行政、安定処理という意味で必要だと考えて、進めているわけですが、個人で負担しろという考え方は、私自身は考えてもいなかったです。それ以外にも、いろんな事業を進めていますけれども。

【坂本代表者】

いや、決めるからには、責任をどうとるかという話です。

【尾崎市長】

それらのことについて、全てを個人的に負担しろという考え方は、無理があるかなと私自身は思います。

【坂本代表者】

だったら、やらなければいいじゃないですか。

【小林市長・衛生組合管理者】

そんなことを言ったら、公共施設を全部つくれなくなる。公共施設を全部市長が負担したらね、市長なんかそんな暴論を吐かないでくださいよ。

**【岡田専任者】**

坂本さんそれは失礼だよ、そんな言い方するのは、そんな言い方をするのは失礼です、市長に対して。

**【坂本代表者】**

失礼じゃないです。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

失礼だよ。公共施設を全部市長が負担したらなんて、お金持ちが市長になれと言っているんですか。

**【坂本代表者】**

逆に言えば、それだけ精査して、17億円とか出しているんですか。例えば37億円とかになった場合に、どう責任とるんですか。

**【小川代表者】**

責任の取り方でしょう。

**【邑上会長】**

まずは、今の質問に対して、私財を投じる、そういう負担をする覚悟はあるのかということに対して、そういう考えはないという、まず1つです。一応その質問に対する回答で、とりあえず1点お願いします。

**【尾崎市長】**

今言った、3億だか5億だかって上乗せされてしまっただけということですが、給食センターは、当初、計画で出した上に5億円か6億円ぐらい上乗せせざるを得なくて、進めていますけども、やはり、そういう部分は、社会情勢の変化だとか、そういう中で、そのようなことは起きる可能性は当然あるかなとは思いますが、ただ、できるだけ計画に則って、それに沿った形で進められるよう努力すると、これは必要だとは思っています。

**【山崎副市長】**

武蔵村山市ですが、両市の市長もおっしゃっていますけれども、行政、色んな施設の建設やいろいろな仕事をしていく中で、最終的には団体として責任を負うものと、市長個人が責任を負うものというふうには分けられると思います。

ただ、この仕事そのものが、今の状況でいきますと、人件費は高騰しておりますし、資材も高騰しております。武蔵村山でもいろいろ事業をやる中では、昨年実施計画をやった

ものが、今年はまだ予算が追いつかない、契約の段階で不調になって、事業が進まないという状況もございますので、今17億が20億になったらどうするのかというお話になりますと、それはなかなか先が見えない状況があるわけです。

その部分の責任をとれという話は、私どもとしては、今お答えするのは非常に難しいと思いますけれども、ただ市政を運営していく中では、市長が常々最高責任者としての覚悟を持って、仕事はしているといふうにご理解いただきたいと思います。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

責任のとり方でございますが、私は2年前に当選をさせていただきました、特定の人から推されたということではなくて、18万7,000の市民の皆さんから選んでいただいております。選んでいただいたと同時に、その責任は常に感じております。

役所というのは、この3人は選挙で選ばれていると同時に、一方で、議会というものがあって、それも直接市民から選ばれて、小平市では28人、ここの小村大も一部事務組合という組合事業ですね、1つの事業を3市で共同してやりましょうということで、行政から一部取り出して、事務組合にして、そこに3市から、議会から派遣された組合議員が4人おりまして、14人で我々が提案したものを全てそこで審議をして、ごめんなさい、12人おりまして、そこで同意をいただいて、仕事をしておりますので、私が管理者ですから、私が何か決めて、全部やっているということではなくて、我々は提案をする責任があります。

三十数万人の人たちが、日々、毎日ごみが出ているわけです。それをできるだけ減量化して、資源化をして、焼却をする量を減らして、地元の人に今でも反対があります、燃やしてる訳ですから。車もものすごい数が来ています。その人たちに再びそこで更新をするということでもありますので、それは、やっぱり地元の人たちにも、資源循環型社会を目指すんだということを具体的な形で示していかないと、更新はなかなか理解が得られない。

そこで、我々は、皆さんはいろいろご意見があろうかと思いますが、多くの人たちの責任を負ってやっております。ですから、我々が責任をどうとるかということであればですね、私は2年後の選挙ですけれども、出るか出ないかわかりませんが、そこでだめだったら、落としてもらえばいい話ですから、それは、我々は、市民の皆さんに負託をされてやっているんですから、責任も、そして、権限も持っております。それを同時に持っております。それは常に本当に身にいつも重くのしかかって仕事をしている。今日も随分、そういう意味では、責任を持って我々は参加しております。

以上です。

**【森口専任者】**

いいですか。

今、小平市長からは、中島町、焼却炉の皆さんに納得していただいて、更新をするためにもということをおっしゃっていますけれど、ここも焼却炉の近くの住人だということをお納得してらっしゃいますか。桜が丘と中島町の1番地ですか、あの辺とは500メートルだか、600メートルしか離れていない場所です。

そここのところなのに、いつも小林市長のお話を聞いていると、あそこの方は皆さん、あそこの方の皆さんが、これから焼却炉を受け入れるんだから、あなたたちもここに資源物施設を受け入れないと、向こうの方が納得しないんだよという言い方になるのがおかしいと思います。

ここの方と向こうの方を差別しないということが、陳情で通っております。衛生組合における焼却炉の周辺住民についての情報格差是正についての陳情、趣旨が、衛生組合は、焼却炉周辺の住民として扱う小平、立川市民とその周辺住民として扱われない東大和市民の情報格差を是正し、当該東大和市民を焼却炉地域住民として同様に扱うことについて、今、小平市長がたくさんおっしゃったように、衛生組合の議員の中で、採択されて、通っております。

それなのに、小林市長は何かにつけて、私たちと向こうの方を分けます。そして、平成25年8月20日の3市共同資源化事業に関する説明会のときにも、ダイオキシンには、ベトナム戦争で奇形児が生まれた枯葉剤問題があり、多くの皆さんの中には、その恐怖があるから、サーマルリサイクルを我々が受け入れるのは難しい。これはサーマルをやったらどうかっていう話のときに出たことです。

そして平成25年11月の衛生組合の定例会では、中野しのぶ議員が、23区のように、プラを燃やす選択をすれば、廃プラ施設は不要になるのではないかという質問に、ダイオキシンが出る問題があり、焼却炉周辺、その前に中島町のお話がたくさんありましたので、中島町の住民が、中野議員の話を理解するかどうかっていうことで、とても中島町の住民の立場に立って、中島町の住民がダイオキシンが怖いと言っているから、サーマルは選ばないんだということを、2回にわたって、公式の場でお話されています。

ところが、私たちもダイオキシン怖いと言っているんです。ダイオキシンのところに、さらにVOCが出るようなものが、ここに来るのは嫌だと言ってます。このことは、私た



ちが怖いんですから、VOCが出るということが、ちゃんと中島町の線路の向こう側の方のところに届けば、その方だって、中島町の方だって嫌だと思えます。

それなのに、小平市長は、こっちのほうにだけには、小平市長じゃないですね。小平市長はちゃんと中島町の味方に立って、中島町の方々の恐怖を心配されて、そういうふうにおっしゃっています。ところが、衛生組合の職員の方たちは、私たちに言うのは、ごみ処理施設は、焼却炉に関しても、廃プラ施設に関しても、基準を遵守して運営するものだから、安全だとおっしゃっています。安全だから受け入れろっていうことを、私たちに、ダイオキシンなんて出ていませんと、VOCも大丈夫です、そういう施設をつくりますっていう説明をされています。

ところが、小林市長の一番根底の考え方には、ダイオキシンが怖かって中島町の人が出ているから、サーマルはしないんだよということを、公式の場で2回も発言されていて、何で私たちが怖かって言っているものに対しては、それだけの理解を示してくださらないんだろう。中島町が怖かって言えば、それは大変だね、じゃあ、サーマルはやめようねっていうのが、1番の管理者の考え方にあって、私たちがこれだけ怖い、怖かっていろんなことに対して言っているのに関して、小平市長がおっしゃったんじゃなくて、職員の方々は、私たちに、安全だから受け入れろと言っている。

まず、その2つの点が変わってということについて、1点は、中島町の人たちと私たち、近くの住民を分けないでほしいということが1点。

この話をすると、いつも出ることが、車がたくさん通っているのは、中島町周辺の住民だから、どうなんだって話になると思います。車の量に関していえば、中島町に一番迷惑をかけているのは、小平市民の一番多い車なんです、量として。もう、それは、もう小平が全体量の半分、大ざっぱに見積もって、東大和と村山が半分ずつです。それで、中島町の方に一番迷惑をかけているのは、順当に言えば、小平市民なんですよ。

そういうことをはっきりしないで、東大和が受け入れないからといって、東大和を敵国のようにしとけば、話がそれるような言い方で、中島町の方に私たちに敵意を植えられても困りますし、中島町と私たちは腹を割って話せば、500メートルしか違わないところの方ですので、話し合いがつかうと思っているので、話し合いたっていても、なかなか話し合わせていただけない状態ですし、中島町の女性の方が、数年前になりますが、二十何ページかある分厚い意見書を、衛生組合の派遣議員の方に送りました。中島町1番地の方でした。そういうことをご存じですか。中島町の方も、こんな近くに建てるなど、自分

たちのところは煙突もあるし、そういうものがあるのは困ると言っている方もいます。

現に中島町の説明会するとき、こちらまで出てきて、意見を述べられる方はいつも同じ方で、東大和に受け入れてくださいって言っていますけれど、それを言っている方は、本当にその方1人だけで、中島町のほうの方は、こんな近くだったら、東大和の中でも、ここはひどいだろうと言っている方がいます。そして、また、そういう意見書を衛生組合の派遣議員の小平市議会議員の方に提出されています。それはぜひ小平議員の方に聞いて、受け取ってほしいので。

話が飛びますが、あと、中島町の方のことを心配されているんだったらば、プラ、軟プラもう燃やして、もう何年にもなりますよね。ダイオキシンが出るから、ダイオキシンが出るからと言っているんだったらば、一番最初にどういう方法をとってでも、それをなくしてあげてらんだったらわかりますけれども、口先だけで、自分たちのところだけはまだ燃やしてて、ダイオキシンが出ているからということは、詭弁でしかないと思うんですね。

車の量に関しても、話が飛んで申し訳ないですけど、車の量は、その前を通るのは…

**【邑上会長】**

ちょっと待ってください。大分長くなったので、区切っていきたいなど。

最初は小平市長への質問というか、要望とかでいいですかね。焼却炉に近い中島町の住民のことはすごく考慮しています。桜が丘も焼却炉に近いです。同様に扱ってほしいって言い方があったと思うんですけど、それは、扱ってほしいんですけど、どうですか、扱ってもらえませんかという問いかけでいいんですか。

**【森口専任者】**

問いかけですし、陳情が通っているんで、扱ってくださいです。

**【邑上会長】**

では、そういう要望をしたということでいいですね。1点は、それで。

1個ずつ切って。

その続きは、いっぱいあったので。

**【尾崎市長】**

済みません。今いろいろと森口さんのお話を聞かせていただきましたけれども、私も、東大和、小平市、武蔵村山市、3市、昭和40年から組合を形成しまして、やってきてます。

そういった中では、一時はぐちゃぐちゃした時期もありましたけれども、ほとんどの期

間は、互いに協力をしながらやってきたかなというふうには思っています。ですから、敵国というのは、言葉は、あまりふさわしい言葉ではないかなと思いますので、ちょっと感じましたので。

**【坂本代表者】**

会長、よろしいでしょうか。

**【邑上会長】**

ちょっと待ってください。

同様に扱ってほしいということに対してはどうですか。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

今日は、私は管理者という立場と小平市市長という立場があります。私は選挙を何度もやっていますから、中島町で演説していると、必ず出てこられる人たちは、建て替えについて、地元は、ずっと何十年、昭和40年から、皆さん何年にあそこに住まれたかわかりませんが、昭和40年からやっておりますので、あそのときは、今、皆さんが住んでおられるところは、多分何もなかったと思うんですけども、その時代から小平市はやっております。

ですから、そこに住んでおられる人たちから見れば、もう何十年、40年、50年近くずっとやってきて、建てかえはもうぜひ違うところでやってほしいみたいな意見もあります。しかし、現実的にあそこ以外のところに建てるというと、時間もそうですけど、ものすごいまた、労費もかかりますし、そこは曲げて、あその場所でぜひ建て替えをしたいということ、小平市長として、また管理者として、それは相当腹を固めてやっていきたいと思っております。それを具体的に言うと、相当またいろいろご意見がある方が出てくると思うんです、今度小平市の側から出てくる可能性がある。私は、それは体を張って、これは34万人にとって必要な施設だということ、私は責任を持ってやっていきたいというふうに思っております。

ですから、今、尾崎市長がおっしゃったように、私は、一方で、そういう肩書きを持っておりますので、ある意味ではダイレクトに聞く機会が多いものですから、そういう立場を申し上げている。聞きようによっては、少し大和の人に対する配慮が足りなかったということはおわびを申し上げます。そんなことは全くありませんので、34万人を代表して、私は今回の3市共同資源化施設も、焼却施設も、あるいは、不燃・粗大、不燃・粗大は現在地の中にありますけど、こういったことは34万人を代表して、皆さんの意見に対して、

やっているつもりでございます。

以上でございます。

**【森口専任者】**

森口です。

趣旨がちょっと伝わっていなかったなので、質問をし直させてください。ここに建てるということは、中島町にも影響する範囲のことで、まず、これは後づけの理由になっているということも、今日は説明したかったんですけど、時間がないので省きますが、3市の中間にあるので、この場所が便利だということ、ここを選んだということになっていきますが、そうなってくると、中島町の方々と桜が丘の方々のいるところに、全部ごみを持ってきたいと、3市の中心で全部のごみを見ろって言っていることで間違いありませんか。

今まで中島町で怒られる、中島町の方々に、あそこに建てるためにだったら、ここに、ほかのところでやってもらうのがいいって言っていますが、結局はこの地域、500メートルぐらいのところを全部で引き受けろと言っているのは、18万人だか、三十何万人のために、この500メートルぐらいのところの方と、中島町の1番地の人やなんか犠牲になれということでしょうか。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

捉え方の問題ですけど、我々は、あその場所が最善だと思っておりますので、その計画がそういうふうに感じられるのであれば、私としては、これ以上の案はないというふうにして提示をさせていただいておりますので、それぞれそういういろいろなお立場で、そういう判断されるのは、私としては、ちょっと違うかなと思いますが、そういうふうにお考えならば、それは、それは私は、現実的に、近いといたら近いわけですから、また近くないとできないって言う、そういった要素もありますし、そういうふうには、私は、そういうふうにお考えであれば、それは、それで、私は、その考えで、それは違うという立場にはありません。

**【森口専任者】**

森口です。

近いって言うことを、今おっしゃっていますけど、煙突からここは500メートルですが、東大和駅を回りますんで、3キロぐらいあるんですねあそこから。そのぐらいの距離があれば、まだ考えられますし、近いというのは、直線距離で近いとおっしゃっているかもしれませんが、現実問題そんなに近くないですよ、一周回りますから。

【小林市長・衛生組合管理者】

森口さん、今回、新しく土地を取得してやるということじゃなくて、現実に東大和市で稼働している施設ですよ。小平市にもありますし、みんなあるんですよ。ただ、それを、何かね、ある日突然降ったように湧いて、そこに施設ができるみたいな言い方をされます。すでに大和の皆さんの資源物は、そこでもう既に処理しているんですよ。

【森口専任者】

森口です。

先ほど小平市長の挨拶のときに、小平市の施設では、新たな処理ができないと、軟プラの処理ができないんでということの挨拶がございました。小平のほうは、1万平米以上あります。東大和はその半分以下です。小平のほうができないようなものを、東大和に持ってくれば、3市分でこの面積に入るかっていう、実質的にどう考えても、無理な考えですよ。

そういうことを推し比べて、既存の施設はここだけですっていう回答をしていますが、同じような既存の施設はありますかという、私が衛生組合に求めたところでは、小平のリサイクル施設がございましてという回答をいただきました。

では、小平のリサイクル施設にどうしてならないんだっていうことになると、ここは中心で近かったという回答が来ると思います。

では、近いかどうかということのを測ってみましたら、東大和駅まで行きますので、東大和駅から暫定リサイクル施設、暫定リサイクル施設から東大和駅ぐらいまで行くと、3キロぐらいあるんですよ。その往復をする分だけ、小平市のごみはこちらまで持ってきて、またそっちへ帰るよりは、小平の暫定リサイクル施設で全部処理したほうがよくないですかというところが1点。そうですね、小平の一番遠いところのごみまで、わざわざ3キロかかるここまで持ってきて、処理しようっていう計画ですから、それで、ここ近いところを選んだということに関しても、1つ言わせてもらおうと、施設見学に行きました。で、近いところを選ぶのは、プラスチックの中に汚れたものや何かが入っているものを、衛生組合の焼却炉に運ぶからだ、だから近いところがいいんだっておっしゃいましたけれど、その出ているトラックの数、市長たちはご存じですか。大した数じゃないんですよ。東大和分が1.5台でしたっけ。月1.5台。東大和が1.5台ですから、村山はもっと少ないでしょうし、小平にしては、2台です、月。

それだけのもののために、この近くの真ん中を選びましたって言って、中心にあるから

とって、3キロもかかる場所、駅を一回りするよう場所を選ぶ理由、全然正当性がないし、合理性がないということも、ここで発表しておきたいと思います。

以上です。

**【邑上会長】**

今、だあーっといっぱい言っちゃったんで、最初のほうは、中島町と同様に扱ってほしいというところから、議論みたいになってしまって、その前に質問がほかにもあったかと思うんですけど、そこは特にいいですか？ 例えば、ダイオキシンの話もちょっとあったかとは思いますが。

**【森口専任者】**

そうですね。ダイオキシンはどう考えているか……。

**【邑上会長】**

続いてしまうと、質問が積み重なっていってしまうので。あと、なかなかその辺のいろいろな経緯を知らない人からすると、だあーっとしゃべられると、わからないかと思うので、できれば、ちょっとゆっくり細切れにというか、分けてしていただけたほうが理解しやすいかなと。

**【小川代表者】**

まず、ダイオキシンのことを答えてください。

**【邑上会長】**

先ほど聞いた中では、桜が丘の住民も、先ほどは、例えば中島町の方がダイオキシン心配をしているから、焼却炉がどうかっていう話があって、桜が丘の住民もダイオキシンが不安なんだけど、どう考えていますかというような言い方だったかなと思っているんですけど、それはどうしますか。

**【森口専任者】**

どう考えているかをお聞きしたいけど、同じように東大和市民も愛してくださるんですよ。とおっしゃいましたよね。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

私、管理者ですから、3市全体のことを考えて判断してますから。

ただ、一方で、ダイオキシンについては、私もこのごみの問題というのは、議員生活が長いものですから、ダイオキシンが一番、焼却施設を造るときに、反対派の、反対をされ

る人たちの一番大きな懸念の材料だったんです。その後、いろんな技術が進歩して、また、燃やす温度も、ダイオキシンが一番出ない温度に設定をすとか、相当技術革新が進んで、もう今は全くありません。これは多分データとして出ておりますので、全く問題ありません。

しかし、そういったダイオキシンに対する全国的な関心、話題になった時期があったものですから、今でもそういったときの記憶を持っておられる方がいるので、あそこで再度、引き続き、昭和40年以降、さらに引き継いで今度建てれば、また相当期間あそこに焼却施設として存在するわけです。

そういったときに、そういった懸念を持った方もおられるので、できれば、そういった人たちに応えていくためには、何か循環型社会を目指すということであれば、その地元に対して、やはり資源化をさらに進めて、焼却施設は今よりも少しコンパクトにして、地元の人たちが受け入れやすい、小平市民の人たちが受け入れる、それは、大和の方も同じです。ただ、現実に住所が小平にありますので、具体的ないろんな手続等は、小平市議会や小平市の行政の中で処理をしなければいけないことは、大変多くあります。ですから、そういうことを言っているんで、ダイオキシンが出ているなどということは、私は一度も言っておりません。

そういった過去の経緯がありますので、そういった方がまだ記憶に残って、だって、長い方は、昭和40年からあそこに住んでおられるわけですから、ずっとそういうダイオキシンが大きな問題になったときのことを、まだ記憶に残っている方がおられるからと言っているんです。

**【森口専任者】**

それがサーマルをされない理由ですか。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

これまでで何遍も聞いてるでしょう。それは、もともとごみ問題というのは、焼却を減らす、要するに、燃やすごみを減らしていこうと、できるだけ資源化をしていこうということで、今回は3市で合意したわけです。できるだけごみは燃やさない、本当は、燃やすごみは、本当はなくしていく。小平市でも、今、生ごみの資源化をやっておりますし、いろんところで手を打っている。できるだけ燃やさないようにしているのにですね、ペットを燃やすなどということになれば、地元の人たちのなかなか受け入れは難しいということ。ですから、1つは、循環型社会をつかって、できるだけ焼却の量を減らしていく

という方向と、資源化を増やしていく。これは方向としては一緒ですけど、そういったことを言っているんであります。

**【森口専任者】**

じゃあ、何で小平だけまだ燃やしているんですか。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

これは現実の問題として、リサイクルセンターの中で、いろんな限界があるわけです。もう更新時期が来ているんです。1回見てもらえばわかる、ものすごく古い。私は何度も行っていますが、機械も相当古いですし。ですから、今回は、この3市共同資源化のことが前に進んでいくことで、こういった問題も解決できるということでもあります。

**【森口専任者】**

外注に出すとかはないんですか。

**【邑上会長】**

ちょっと待ってください。一旦切って、別の方が挙手してたんで、お願いしたいです。

**【庄司代表者代理】**

プラウド地区の庄司と申します。今日は飯島の代わりで、初めてこの協議会に参加させていただきました。今回、市長お見えになるということで、多分いろんな質問は出るだろうなと思ったので、私はまずは聞いてたんですけど、やりとりの中で非常に気になったのが、まず1点あります。で、結論としては、小林市長に質問、尾崎市長に質問、それから、その前段で意見表明をさせていただきます。

まずは、私は反対なんです、やっぱり私も。だけど、さっき、プラウドの光橋さんが言ったように、何が何でも反対じゃないんです。納得ができないから反対なんです、じゃあ、何が納得できないか、その行政判断の過程が見えないんです全く。だから、反対なんです。

で、その上で、小林市長に質問です。質問ですけど、確認ですかね。さっきおっしゃったのは、ここの場で1年間やってきましたと、説明は尽くしてきましたと、空転していますと、行政庁は、全員の賛成を待っていては判断ができないという旨をおっしゃいました。なので、ここで反対も、ある意味、仕方がないんだというようなふうに取り扱いました。発言の意図はともかく、少なくとも聞いている人間としては、そう受け取りました。

で、質問です。光橋さんもさっき発言がありましたし、私も今、発言しました。で、気になったところは、ここの皆さんは、どうやら感情的に反対しているんだというような認識をしているんじゃないかと、小平市長ですね、小林市長ですね、という印象を持ちまし



た。そこに対しての弁明というか、意見は、私が今申し上げたとおりです。光橋からも申し上げたとおりです。ですので、まず、ここの認識、きちっとマッチしているかどうか、それを確認させてください。これが1点目。

それから、ちょっともう、質問を絞りたいたんですけど、中島町で、今軟プラ燃やしています。硬プラ燃やさない理由、これ端的に説明をしてください。これが2点目です。小林市長に対する質問は、以上2点です。

もう1点は、尾崎市長に対する質問なんですけど、この3市共同組合に固執する必要ってあるんでしょうか。民間不安定、これ非常によくわかります。民間は営利企業なんで、商売をやめたと言え、それでおしまい。じゃあ、ごみどうするんだと。ごみ問題、行政サービスの非常に重要なサービスだと思っていますし、まあ行政が、まあ何て言うんでしょうかね、こう、市民サービスとして提供できる、すごくアピールしやすい材料だとも思っています。なので、そういう面で、要するに、ごみ問題逃げられないと。どこでもある問題だと、これは非常に理解しています。

だけど、民間に頼らずにできる方法はあると思ってますし、で、その提案をすればいいじゃないかという説明は、さっき小平市長からありましたけれども、その提案をするために、まあ、いろんな説明を聞いてきたわけで、その説明に納得ができないということが、現状なんだと思うんです。

なので、そういう状況で、この3市にこだわる、ほかに選択肢があるのに、こだわる理由がよくわからないですし、別に民間に頼らずにできる方法はあると思うので、その提案を発言できる機会があれば、したいと思えますし、そういう意味で、別に3市にこだわる必要はないんじゃないかというふうに思っていますが、その辺、尾崎市長、いかがでしょうか。

以上です。

#### 【尾崎市長】

3市の組合に固執する必要があるかっていうことですが、私ども東大和市は、先ほど言いましたように、昭和40年からずっと長きにわたって、3市で共同処理をしてきたということが、1つ大きなこととしてあるかなというふうには思っています。

それともう一つは、今回のプラスチックの資源化施設、それから粗大ごみと焼却炉ということですね。東大和市のごみ行政をこれからも円滑に進めていくという最低限のことをするためにも、やっぱり3市が、それらの3施設を総合的にきちっと管理し、運営してい

くことが必要なのではないかなというふうに、今、考えている、そういう意味で、固執という言葉が合っているかどうかというのは別にしまして、普通にこれからも3市で、よりよいシステムをつくっていければというふうには思っています。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

やや感情論になっているという、感情的にもう反対じゃないかと決めつけているんじゃないかと、そんなことはありません。ただ、どうしても入り口で、今日、冒頭、せっかく我々が来ているんだから、我々にと思ったんですけど、入り口のところで、いろいろあったものですから、私も、いや、ちょっと感情的な人間なものですから、もし、そういう言い方であったら、誤解でありまして。

私は、そういうのを皆さんに理解していただきたいために、手続の話になると、どうしても中身に入っていけないので、さっきもお話しさせていただきましたけれども、そういう意味で、具体的な姿ですね、施設の姿、大きさはどうか、中の設備はどうかであるとかですね、あるいは、さっきVOCの話が出ましたが、この問題についてはどういうふうにするのか、皆さんが懸念されているものに対して、どういうふうに解決策をとっておられるのか、そういうところに入っていけないと、どうしても入り口論になっちゃうので、つい私もそういうふうな言い方をしたかと思いますが、とにかく一番施設の身近な方ありますから、まず皆さんに理解をしていただくということは大前提であります。

これは、正直申し上げて、なかなか全員が賛成しなければできないということになれば、この種の施設というのはなかなか現実的には前に進まない。既存の施設でも、まだ周辺には、いろいろ納得していただいてない方、現実おります。ですから、常に皆さんの要望に応じていきたいというふうには思っております。どこかで見切り発車で何かをとということではなくて、しかし、一方で、焼却施設であるとか、不燃・粗大は何度か爆発事故を起こしているんですよ。これは型がものすごく旧式なものですから、その中で、原因は確かガスボンベだったと、もちろん、ガスボンベ入れちゃいけないんですけど、新しい型であれば、こういったところは、発火せずにうまく乗り切れるんですけども、旧式なものですから、そこで爆発事故があった。運よく、どなたもけが人がおられなかったから、よかったです。このもう、不燃、粗大ごみ破碎するんですけど、粉々にするんです。この施設も、もうそろそろ限界なんでね。

こういった、我々、現実的なところに向き合いながら、しかし、皆さんに理解をしていただくかなければいけないというところ、両方を我々、苦渋の中で説明をしている。です

から、1年かけてやってきましたが、私らは何度も出ておりませんが、事務方は誠意のある説明をしてきたんだろうと思いますし、私はその後にその報告も受けておりますので、とにかく、ちょっと感情論になってしまったところは、今後改めていきたいと思いますが、とにかく、我々には具体的な姿とか、こういう問題についてはどうするのかとか、車の話も出ましたけれども、この車の問題についても、何か我々のほうで、皆さんに具体的に提案があったり、あるいは、我々のほうで具体的な解決策とかあれば、示していきたいと、具体的な話にならないと、なかなか入り口論だけだと、いつも、ついつい私も、つい感情的になってしまいますけど、そこはできるだけ抑えていきたいというふうに思っております。

**【庄司代表者代理】**

今ので、1点だけよろしいですか。すいません、プラウド庄司です。

1点だけ。反対理由をどのように理解されているか教えていただけますか。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

私も何回か出ておりますが、やっぱり皆さんは、さっきの、車の話とか、VOCの話であるとか、あるいは、その建てた後の、さっき、においの話もありました。こういったことが、多分、懸念、心配の材料なんだろうと思うんです。

ですから、そういった問題について、我々は真摯に、皆さんが懸念されていることについて、答えているとは思いますが、再度、必要があれば、答えていきたいと思っております。

**【岡村環境部長】**

会長。

**【邑上会長】**

補足の説明ですか？

**【小林市長・衛生組合管理者】**

硬質プラスチックの…。

**【岡村環境部長】**

2問目の。

**【邑上会長】**

はい、どうぞ。

**【庄司代表者代理】**

済みません、あくまで市長への質問です。

【小林市長・衛生組合管理者】

いや、彼は、私の命を受けて、仕事をしていますから。

【庄司代表者代理】

いや、違う。だから、市長の言葉を聞きたいんです。それだけなんです。技術的な行政的な説明は、今は要らないんです。今日の場は要らないんです。

【小林市長・衛生組合管理者】

繰り返しになりますけれども、基本的には全部資源化をして、できるだけ焼却量を減らすということではありますが、今の小平市が持っているリサイクルセンターは、これ、学校用地だったんですよ、だから、色々、用途の問題でいろんな制限がありますから、そんな中で、今、稼働をしておりますけれども、そこで、処理能力を超えるものですから、現在は、軟質系については焼却に入れているところでもあります。

【岡田専任者】

栄三丁目自治会の岡田です。

いろいろ意見が出ておりますけれども、私も、ここに最初来るに当たって、こんなところに、こんな工場を造っていいのという、そういう、もう誰がどう考えても、単純にそういうふうに思います。で、いろいろやる中で、まず村山さんと小平さんの市長にこれだけはわかっていただきたい話をしたいと思います。

まず、小平さん、今、議論になっておりますけれども、焼却場、車の問題あるかもわからないですけれども、煙は南と北、半年ごとに南風、北風が吹くとするならば、被害は、東大和、小平全く同じ量を受けているという理解はしていただけますね。それは、まず1点。よろしいですね。それから、村山さん、し尿処理では大変ご迷惑をかけております。そういうところではありがたいんですけれども、で、近隣の住民の方が何でこれほどしつこく反対するのかというと、まず、し尿処理のほうは、あんまり環境的にも問題ない、今は量も減っております。それから、焼却場は広範囲にばらまかれてしまいますから、ある意味、全体の問題となる。ところが、プラスチックの工場の場合は、VOCにしても、においにしても、空気より重たい。ということは、限られた住民の方々に非常に被害が、被害という言葉を使うかどうかは別として、影響を受けるという、がゆえに、やはりどうしても自分たちが被害者みたいな気持ちになるという部分は理解していただきたいんですよ。これはわかっていただけますよね。

ですから、ごみというカテゴリーの中で、村山さんと小平さんと東大和市が、3つ責任を負う。その中で、東大和がプラスチックを請け負うってことは、万やむを得ないのかなという部分も一応理解できる中で、じゃあ、東大和でその建設工事をする場所がここしかないという、まあいろいろ理由はあるんでしょうけれども、ここは、前、工場用地であったとか、そういう中で、決まったときが、ほとんどマンションがなかったとか、いろいろあります。

そういうところで万やむを得ないのかなとしますと、実際に工場を造ったときに、全く、ほとんど環境に影響を及ぼさない、地域住民に影響を及ぼさないような工場を造ることが本当に可能なかどうか。そういうことで、この会議の中で、いろんなところを見学してくれというのを、私のほうから提案しました。かなりきれいな工場でも、やはりにおいは出ます。ですから、ここで造るんだったら、私は最初から言ったんですけど、世界一の工場を造ってくれと。要するに、ゼロというわけにはいかないでしょうけれども、VOCにしても、臭気にしても、ほとんどないような工場が造れますかと、それにはお金がかかりますよと、そういうことを覚悟して、行政側はやっているんですねという、やっていただけますねという話をしてるんですよ。ですから、私は賛成派みたいな形になっておりますけれども、本当にそういう工場が造れるという確信があるなら、私は賛成したいと思います。で、三十何項目にわたる質問状を出しております。検討しますということしか出てきておりません。これ非常に不安です。いろいろ分厚い計画書がございますけれども、ほかの焼却施設を見たときに、本当に、この、3市共同事業化センターの方々が、真面目にどこまで設備を検討しているのかなというのは、ちょっと疑問なんです。で、その辺の覚悟はちょっと、まず決意表明でもしてもらえばありがたいんですけども、それが1点目。

2点目は、東大和市全体の市民が、村山さんと小平さんに投げかけたい、お願いとか要望なんですけれども、やはり、同じ土俵の中でごみを出してもらいたい。東大和市は、尾崎市長が頑張って、有料化をしました。それによって、ごみの選別がきれいになり、減量もしました。

やはり、村山さんと小平さんは、これを検討はされているということなんですけど、やはりもう、具体的なスケジュールを、我々の前に見せていただきたい。要するに、小平の市長さんがおっしゃってございましたけれども、減量するんだ、計画はある。そうすれば、焼却施設も小さくできるんだということはおっしゃってましたけれども、そういう形であれば、やはり我々としては、こういう計画で、3年以内にはやるとか、今すぐというわけで

はないんですけども、その辺のやりますという決意表明をぜひ聞きたいと思います。

この2点をお願いします。

【邑上会長】

2点とのことだったんですけど、私だと、いっぱい書いて、4点ぐらいになりましたけど。

【岡田専任者】

1点は、どんなお金かかっても、その、しょうがなくて施設を造るんですねと、要するに、13億とかと言っておりますけど、まずそれではできないと思います。費用高騰もあると思います。しかし、それだけじゃなくて、もっとプラスアルファの設備を入れなかったら、ろくな施設になんないなというようなことですね。

2点目は、村山さんと小平さんに、要するに、ごみの収集に関しても、より減量化の具体的なスケジュールについて、ぜひ検討を具体的にさせていただきたいという、その決意表明をしていただきたいということです。

【邑上会長】

ちょっと私のメモ、その前に焼却炉の排気について、小平と東大和とは同程度の影響を受けているという認識だけど、どうですかというのがあったと思うんですけど、それは確認？

【岡田専任者】

そうですね。それは1つ。

【邑上会長】

それは小平市長に確認したいと。

【岡田専任者】

それがいいなんていうということは、あり得ないと思います。

【邑上会長】

あとはVOCの被害があるかどうかは別ですけど、被害があるとしたら、周辺住民が被害者になるという認識をしますかというようなこともあったと思うんですけども。

【岡田専任者】

それは、いや、皆さん、これだけ、言葉は悪いんですけど、ヒステリックと言うんですかね、非常に頑固に反対するっていうのは、いわゆるみんながそういうことを理解してないんじゃないですかと。ここにつくればいい、ここが一番便利だと。そうじゃない。どっ

ちにしても、この3点を含めたこの人たちは被害者なんですよ。これはつきり僕は言えると思います。その辺の認識っていうのをみんなが持ってあげなければ、いい工場を造ろうということにはなんないわけですよ。お金かかったって造る。じゃあ、何十億円ってかかったら、これはつukれないということになったら、次の段階に行かなきゃいけないわけですね。

ですから、やはり、近隣の焼却施設だとかとは、設備が違うわけですよ。VOCっていうのは空気より重たいから、風が来なければ、要するに、滞留するわけですよ。

#### 【邑上会長】

そうですね。VOCの勉強会のほうでも、どんどん濃くなるかどうかは別として、空気よりほとんど重いので、下に行きますよという話はあったと思うんですね。なので、遠くよりも、当然、近いほうが、被害を受けるであろうということは間違いないかと思うんです。

それとあとは、VOCやにおいて、全く影響を出さないような施設っていうのを建設するという、建設できるという確信とか、予算とか、覚悟とかがあるのかということですよ。あとは、東大和市はごみ有料化していますけれど、今回のプラスチックのリサイクルだけじゃなくて、ほかのごみの処理についても、同じような状態で進めてもらいたい。それについては、どういうふうに考えているのか、ここで意思を表明してほしいということですよ、いいですか。

それでは、よろしくお願いします。

#### 【尾崎市長】

最初の世界一の施設を、工場をとということでございまして、そういった意味で、前もお話をさせていただいたと思いますけども、やはり安全性というのは最優先でいきたいというふうには考えています。

そのためにもですね、具体的に規模というか、どういう大きさの施設で、どれだけということ、より一層具体性である形で進めていく、そういう中で、しっかりとお示しできるんじゃないかなとは考えているところであります。

以上です。

#### 【小林市長・衛生組合管理者】

ごみの有料化の話でありますけど、これは、すぐ、にわかにはやることはできませんが、小平市では、ごみ処理基本計画というのを作りまして、平成31年から有料化をするとい

う方向で、今、計画書はできております。

以上でございます。

【山崎副市長】

武蔵村山市の、初めにお話があった、し尿の処理場ですが、最近は確かに搬入量も減ってきて、規模を縮小するという段階になっておりますが、昭和36年から稼働しております、当時はまだ下水道も普及していない状況で、相当な施設の規模と処理量はあったのかなとは思いますが。

それから、武蔵村山のごみの有料化、減量でございますが、現在、可燃ごみ、特に生ごみについては、ごみをなくすような堆肥化等さらに進めて、ゼロにするような方向で、モデル地区を定めて、今、実験中でございますが、一方で有料化につきましては、ごみ処理基本計画の中では、平成30年という目標を掲げております。

以上でございます。

【岡田専任者】

ありがとうございます。

【邑上会長】

有料化についてはいいんですけども、排気のほうはお聞きしたいんですよね、同じように。

【岡田専任者】

そうですね。わかりますねという。

【邑上会長】

言うまでもないと。境界の位置にあるので、同じように影響を受けているという考えですけど、同じような認識でしょうかということの確認をしたいんですよね。

【岡田専任者】

そうです。

【邑上会長】

それぞれ？ それは、どなた？

【岡田専任者】

小平市長。

【邑上会長】

小平市長ですか。



【岡田専任者】

一声で終わると思います。

【小林市長・衛生組合管理者】

被害を受けていると私が言うと、または、それで、問題になりますけど、焼却施設についてはですね、あの……

【岡田専任者】

同じ環境にあるということです。

【小林市長・衛生組合管理者】

ええ、いや、ま、そうですね。

【岡田専任者】

出た煙だけを見ていると。

【小林市長・衛生組合管理者】

後で、言葉尻を捉えられると嫌なものですから。

【岡田専任者】

私自身が捉えません。

【小林市長・衛生組合管理者】

まあ、ああいう施設の性格上、そういう気体というんですか、そういうものが、市境を越えて、行くということはあると思います。同じ環境下にあるというんですか、これは、ま、なかなか……、はい、そういうふうに思います。

【岡田専任者】

もう一つ余計なことを言いますと、今度、新しい焼却場の計画があるときに、東大和の人間も一緒に入れた形で、そういう議論の中に加わりたいなという、そういうことはございます。

【小林市長・衛生組合管理者】

今の話でいいますと、小平市の場所は、一方で立川市も隣接しております。すぐ近くに立川市の処理場もあるんですね。ですから、そういう意味では、具体的にそういう話になっていったときには、できるだけ周辺の皆さんにはご理解いただくようには説明してまいりたいと思います。

【田中代表者】

今、さっきも国立競技場の話が出ましたけれども、2,520億円、プラス年間維持費だけで、恐らく四十数億円かかっていくだろうという莫大な費用です。

東大和に造るものも、この3市共同のこのパンフレット、この中には、費用計算で13億2,000万円が計上されている。ところが、その費用計算では、見積もりをとったところ、誰も受けてくれなかったという事実がありますよね。

で、このまんま、例えば処理場を造るときに、本当に幾らかかるのか、そして、その費用計算したときに、今後それを運営していくために、どれだけの費用がかかるのか。それを小平市と武蔵村山市と東大和市で、共同で管理していくものなのか、東大和市だけに全部押しつけられるものなのか。本当に重要な問題です。というのは、そうなると、市民税がまた上がります、そうなるよね。それでなくても、今、本当に、我々の年代、本当に来るのはごくごく僅かの年金です。そこへまた税金増やされたら、それでなくても、いっぱい、いっぱい、みんなやっているわけです。16%ぐらいが、貧困だと思っている方が、日本中にいるわけです。

ですから、その辺をよく考えていただいて、費用計算、それから、本当に今の場所、隣が老人ホームです。そんな場所に本当にごみ処理の施設を造るときに、もしVOCが垂れ流しになったときに、最初に一番影響を受けるのは、そのお年寄りたちです。ですから、それを一つ一つクリアしていく意味合いで、この場所を使っただけののかなと思っていました。ところが、残念なことには、そもそも論であるとか、それから、どうしよう、どうしようって、結局、1年間ずっと空転してきてます、今日もそうです。ですから、もっと、例えば、本当にこの場所に造るためには、地元のマンションの人たちにもご迷惑かからない、本当にVOCが出ない、あるいは、においが出ない施設なんてできるんですか。ですから、一つ一つをクリアしていく意味合いで、この場所を使っただけののかなと思ってはいたんですが、残念ながら、議論の場ではないと最初に言われました。ということは、一方的に話を聞くだけの場所なんですかっていうことです。ですから、本当に真摯に、こうして市長さんお忙しい中来ていただいて、話を伺う機会が得られたこと、本当に感謝します。その機会ですから、本当に、今プラウドさん言われましたけれども、原則的には反対なんです、よい話し合いができるのであれば、賛成に回りますってはっきり言っているんです。ですから、そういう意見はたくさんあると思うんです。ですから、一つ一つそういうものをクリアしながら、場所を選定しました、それから、これからお年寄りに迷惑がかからないような施設を造ります。一つ一つ前へ進め、そして、

いいものを造ってくんだ、ただし、費用計算だけは、これは国立競技場みたいに2,520億円、どこから出すお金か知らないですけども、本当にそんなものでも造ってもしようがないわけですから、私たちは、ごみの処理場を造る、そのための真剣な話し合いの場所に、ここをできればなって、私自身思いました。ですから、3市の市長の先ほどからの話を聞いていますと、具体的にこれからどういうふうにしたっていう、また、今日は時間も遅いですから、あれですけども、改めてもしお時間をとれるようであれば、この席でそういう話をさせていただければと思います。ぜひそんな形で、もっともっと前に進めるような形で話し合いをしたほうがいいんじゃないかなと思ったんです。老婆心ながら、言わせていただきました。

#### 【邑上会長】

はい、ありがとうございます。

予定は45分だったんですけど、21時になってしまいました。そういう意味では、終わりにはしたいんですが、3市長が来るような場というのは、多分そんなにないのと、この後来るときには、今の行政側の思惑としては、当然進めていく方向なので、具体的な高さがどうか、植栽がどうかというような話を決めたときみたいな話になってしまうかと思えます。そうすると、今まで1年間やってきたこと、空転しているという言い方あるんですけど、空転しているのではなくて、きっちり議論したいということが行われずに進むだろうなということは、想像に難くないですね。

今はプロジェクトの進め方がうまくない状況だろうっていう認識です。多分、皆さんそうだと思うんですけども、こう決めたんで行きますよ、ということに対して、何でそう決めたんですかということ、実は最初から言っているんです。

何で決めたかというのは、基本的には一応説明しているんです。説明してるんですけど、納得がいくような説明をされていない。または、納得がいくような検討がされていないと思われるという状況です。ですので、何度繰り返し説明を受けても、誰も納得ができないという状況なのかなと思います。当然、市長は毎回出ているわけじゃないので、そういう認識になっていないかもしれないんですけども、私含め、多分皆さんそういう認識かなと思います。で、このまま次となったときに、当然納得いかないままなので、困るじゃないですか。で、どうしましょうかっていう話になるんですが、最初のほうから言うと、そもそも要綱になっちゃうんですけども、要綱には設置について合意したという話がある。まあ、3市ですね、理事者が合意しているということで、市民が合意とかではなくて、3

市長が合意したものが、この3市共同資源物処理施設になるんですけれども、その建設に関して、地域住民が、地域の良好な環境の維持、向上及び安全の確保を図ることを目的と言っているんです。

こういうことが目的なので、良好な環境の維持というのは、当然我々の心情も含めてになるかなと思いますけれども、なので、それが維持も向上もできていないですよ。なので、うまく進んでいないという状況になってます。

ここの1条を書きかえたいねっていう話を最初のほうからしているかと思うんで、私はそういう話をしたいんですけれども、これを、それこそ片山さんとかに言われても、当然、はいと言えないですよ？言えないですよ。

そうすると、当然、理事者がいないとだめなんで、3市長いるところなんで、ちょうどいいかと思うんですけれども、進め方がよくなくて、自信を持った案だという話はあるんですけど、自信について、納得できるものが提示されていないので、ああ、そうです、最良ですねと、多分誰も言えないんで、言わせてもらえるなら、いいと思います。

なので、最良ですねと言いたいので、材料を出してくださいと、ずっと光橋さんとか言っているんですけど、出てこないの、できれば、その材料を出していただきたいんですね。その上で、ああ、そうだねと言うのか、ちょっと足りないねというのかは、進めていきたいかなとは思っているんですけれども、どうですか、光橋さん、そういうことですよ。

**【光橋専任者】**

そのとおりです。

**【邑上会長】**

要綱を書きかえないでも、それができるというような説明だったと思っています、私。なので、まあ、とりあえず、要綱認めて進めればいいんじゃないのと私は言っていたと思います。ですけど、進めてから、実際は手のひら返しみたいな形で、それは認められませんみたいな話になったので、森口さんもお怒りになっているんですけれども、なので、要綱を書きかえるのか、書きかえないにしても、もうちょっと、何て言うんですかね、私は検証という言い方をしているんですけれども、設計したものに対しては、検証するという事は普通の流れなので、検証しましょう、住民の目で検証しましょうということをしていきたいと思いますが、いかがでしょうか。3市長と言われると、あれかもしれませんけど。

このままだと、次回以降も、結局、前に言われていたみたいに空転という言い方になっ

ちやうんですけど、そういうような状況で進むことは間違いないんですね。なぜかという  
と、納得できる情報が開示されていないからです。そういう認識なんですけれども、いか  
がでしょうか。そろそろ終わりにしたいので、そうですねと言っていただけのが一番い  
いんですけれども、どうでしょうか。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

今までも誠意ある対応はしてきたというように思いますが、これはもう相手のあること  
ですから、皆さんがそうではないということであれば、これはうちの思いが、なかなか  
伝わってなかったことになっていきますが、引き続きやってまいります。

多少、こう、皆さんの中で発言をされておられる方もおられますが、多少いろいろ温度  
差があるんだと思うんですね。具体的な形で示して、その中で安全性なりの確認をしたい  
とか、まあ、やむを得ないとして受け入れていきたい、そうじゃない立場の方もおられる。  
もともと計画そのものに対して、反対の立場でおられる方もおられますから。

ただ、この全体の温度差の中でどう進めていくかというのも、会長さんも非常に慎重に  
発言をされておられますので、本当にご苦労されておられると思いますが、より、皆さん  
に具体化すれば、すればするほど、反対の方、賛成の方というのは色濃く出てくる。今、  
かなりその、ごみ処理施設という、非常にふわっとした施設に対する不安とか、やはり一  
般的なこういった施設に対する反対論、感情的な反対もあります。

こういったところで終始していると、なかなか前へ進めませんので、出来ればですね、  
何度も繰り返しになりますけれども、姿であるとか、どういうふうな高さがいいですか、  
車の話も何度か出ましたけれども、あと植栽がどう、屋上緑化はどうか、壁面はどうか  
か、こういう具体的なものを、施設の概要みたいなものをもっと説明をして、その中で皆  
さんが心配されているところを、我々は、先ほど世界一の施設を造ってというふうに言わ  
れましたけど、そこまで言い切れるかどうかわかりませんが、我々の知り得る範囲で、皆  
さんの不安には答える、結果的には、今とり得る最善の技術を駆使して導入してやってい  
くということを、具体的に示していきたいというふうに思っております。

以上です。

**【邑上会長】**

ありがとうございます。なかなか、回答があまり変わらないので、なかなか難しいんで  
すけれども、揚げ足取りではないんですけれども、先ほどの最高の施設とは言えないがとい

うのは、確かに最終的に言えないのはわかるんですが、少なくともそういう気持ちが、気持ちとか、あるかどうかっていうのは1つあるのかなと思いますので、それは、そうなんですけど、具体的な話の前に、まず目的は何なのかとか、なぜこういうやり方をするのかということが、少なくとも納得してもらえていない状態です。説明はしているんですよ、説明はさせていただいているんですけども。なぜかという、ある意味、丁寧な説明がされていないのと、根拠がないんですね。何度も、処理は民間でやるのか、公設でやるのかという話が出ていまして、議会でも出ていますけども、民間だと安定しないと、じゃあその安定しない根拠はっていう話になるんですけど、根拠はないんですね。最近、比留間さんに行ってきた方は、お話しして、あ、そうだよねと思ったと思うんですけど、民間で不安定ですかねっていう話になりましたけれども、民間は努力するので、もっと持ってきてほしいぐらいですという話ありましたね。なので、食欲にやっついこうということが、民間だからこそあると思うんですね。公設にすると、建てたら、減価償却も含めてあるんで、数十年という単位で存在しないわけにはいなくなるので、これから人も減ってきて、ごみが減っていったときに、その規模の施設を維持することに、意味があるのかというふうになってくると思います。それは、多分10年後、20年後なんですけど、その時ないからいいやという話になっちゃうんでしょうけれども、我々はまだいるので、多分ですけどね。やっぱそうは言ってもらえないので、今のうちからどうにかしたいということになります。これは、マンション内の理事会で言っている話と本当に同じような感じなんですけれども、ちょっとやっぱり将来考えていってですね、先を考えなければいけないですね。なので、感情的な反対もあるんですけども、VOCに関しては、すごく、そこを払拭するのは難しいだろうと思っています、被害があるっていう証明するのは難しいでしょうし、ないと証明することは難しいと思うので、それは多分感情的になっちゃうんですが、そうではなくて、お金であれば、多分誰が見ても、ああ、そうだねってなると思いますので、お金に関しては、しっかりと情報を開示させていただいて、だから、この金額を出してやるんですと、これだけメリットがあるからやるんですということを出していただければ、私も本当に、まあ仕方ないねって言うかなと思っています。多分、皆さんそうだと思うんですけど。今、公設にする理由とかは、お金に関しては出てきていないです。規模に関してもそうですよね。ですので、そこが出ない限りは、細かな話はできないんですね、という認識です。多分、ほとんど同じと思うんですけども。皆さんやっぱりやり方がよくなって、最初のほうで住民からその辺のチェックを受けて、計画を修正しつつ進めていくとい

うことをやってないからかなと思います。

なので、今日、これで終わっちゃうとですね、次回になりますけれども、多分このまま進めるしかないですね、と思います。ですので、私から言うのもあれですけども、多分このまま進みますので、順調に進まないと思います。ただ、片山さんを責めないでいただければと思います、そうするしかない状況ですので、そこをちょっと変えるには、やっぱり進め方を変えなければいけないだろうと思っています。その1つが、そもそも論というか、検証です。検証した結果、よくないものは直していくということをするべきかなと思っています。ちょっとあんまりしゃべっていてもあれなので、まあ、9時ってだいぶ過ぎちゃいましたので、今日は終わりにしたいんですけども、終わりってというか、ちょっとまだ次回の話とかあるので、あれなんですけども。

済みません、ちょっとしゃべっちゃいましたけど、一応、なんか、最後閉めるということで、ちょっとお話をいただこうと思います、よろしくをお願いします。

**【小林市長・衛生組合管理者】**

今日は長時間にわたりまして、本当にありがとうございます。まあ、色々なお立場で、あるいは、この施設について向き合う姿勢の違いみたいなものがあります。こういう中で、合意形成を図っていくというのは、なかなか難しいわけでありまして。

私どもとしては、施設の必要性であるとか、立地については十分説明はしてきたつもりでございます。なかなか十分ご理解いただけない方もおられるようではありますが、しかし、繰り返しになりますが、焼却施設の更新時期、もう、1度していますので、もうかなり限界、煙突はもうかなり限界に、焼却施設も旧式ですし、もう限界に来ておりますので。あと、不燃・粗大ごみのほうも破碎してやるんですけども、ここも限界に来ております。ですから、皆さんの理解を得ながらも、現実的な、こういった施設の更新というのは、先送りができない状況でございます。ですから、具体的な姿や具体的な個別課題について、我々も一生懸命、皆さんの不安を払拭するように努力はしてまいりますので、少しでも具体的な形で前へ進めて、これからいきたいと思っておりますので、今後ともどうぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。今日は長時間にわたりまして、本当にありがとうございます。

**【邑上会長】**

ちょっとまだ終わらないですけど、ありがとうございます。

連絡ですけど、次回は8月8日の土曜日、午後7時から、また場所はここの桜が丘市民

センターになります。

で、今回は、実は会長、副会長の任期が1年間ということに要綱でなっていて、今回は私ですけど、一旦ここで終わります。我こそはという方がいましたら、今のうち考えておいていただければと思います。なので、そのための選任のことを次回やろうと思いますので、ちょっと考えておいていただければと思います。

で、どうします？ そのまま終わっちゃうと、また同じ話を次回も多分するんですけど、要綱の見直し等を進めたいという考えがありますので、そういう話をしていきたいと思えますので、よろしくご理解をお願いします。

以上ですけれども、いいですか。

はい、じゃあ、長時間お疲れさまでした。